

# 補助金対象事業報告書 (平成25年度)

団体名	特定非営利活動法人 プロップK (平成 17 年 10 月設立)
事業名	福島の今!見て・聞いて・感じて・寄り添うボランティア1日体験ツアー
事業(該当区分に )	1. 活動促進事業 2. 協働事業 3. 若者活動事業 4. 地域活動チャレンジ事業

## 1 事業の目的

目的	この事業は区内に潜在する貢献活動賛同者を発掘し今後の地域活動に導く機会の提供と基金の周知の為民間企業、福祉団体と手を組む事業である。震災後の「南相馬市の被災住民へのケア事業実施は、ボランティアの向上や現地調整には杉並区、南相馬市両社会福祉協議会との連携が必要不可欠であり、未だ交通手段が限られている南相馬市での活動には企業の力も必要。3者が協働目的の一つにし、人材の発掘や活動継続、基金の普及活動などにも個々特性とネットワークを生かした事業として協働する事に意味があるとこの助成事業に申請した。
----	---

## 2 事業の実施状況

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	実施対象者・対象人数(延べ人数) 募集人数 25名 対象延べ人数 240名 (事前学習・研修・実施活動日現地参加者含む)	応募参加者 21名 事前講座5回 19名 17名 15名 18名 20名 南相馬活動参加者 原・鹿島 合計 56名 振返りの会1回15名 合計160名
	実施内容 ・福島ツアー(2泊3日)中1日を被災地のボランティア活動とする。現地理解や傾聴講座等を事前習得する事を条件にし、それらの体験を通じて地域で活動できるよう育成する。 ・協働事業として3団体が役割分担を明確にし実行委員会として情報共有し募金活動等も積極的に行う	学習や情報提供は杉並・南相馬社会福祉協議会・移動活動は杉並交通と分担し3団体の協働によって計画し実施。 11月14日～16日仮設住宅活動日11月15日の支援活動旅行を実施 区民21名が参加。学習や情報提供によって寄りそう活動を自主的にやる力をつけた。旅行中の交わりや活動の成功体験を共にする事で参加者同士に強い仲間意識が生まれ、その結果継続的な活動するグループができた
	実施場所 ・事前講座・周知活動・支援金啓蒙活動 区内施設 ・あんさんぶる荻窪・NPO支援センター・ゆうゆう館・杉並交通関連施設・区民センター・その他 現地場所 南相馬市内仮設住宅集会所・ 南相馬市社会福祉協議会関連施設	・運営委員会 各委員が多忙なため面談での会議を極力省略しメール電話等での意見交換が中心となった ・現地訪問報告と事業内容と周知方法等確認 ・講座 NPO支援センター、ゆうゆう久我山館 ・実践研修 セシオン杉並、11/30社協交流会 ・啓蒙活動 8/31杉並交通、浜田山デイサロン開所会、11/2杉並交通感謝の会浴風会ホール、11/10プロップk文化祭、浴風会ホール他 ・ゆうゆう館・浜田山ツタヤでのチラシ配布も実施
	実施回数・スケジュール ・会議予定・準備会4回・報告会2回 ・事前講座予定・6回	・運営会議 9月19日4名 12月18日6名 ゆうゆう久我山館 ・現地会議調査 8月31日6名 鹿島区ボランティアセンター原町・鹿島集会所 2月26日15名 南相馬市ボランティアセンター原町集会所 ・事前学習5回と振返り会1回 計6回会場 9/26 19名 9/30 17名 10/4 15名 10/17 18名 10/31 20名 1/22 15名 NPO支援センター5回 久我山館1回9/30のみ 現地活動日 11/15 南相馬市鹿島区・原町区集会所2か所
	実施体制(従事した人員数・設備等) ・杉並区社会福祉協議会ボランティアセンター: 2名 ・南相馬市(社協)復興生活支援センター 3名 ・杉並交通 スギコートラベル 2名 ・日本ダーツ協会 協力・杉並区体育協会協力 ・実行委員会8名予定	事業運営者(団体) 20名 (社協)杉並ボランティアセンター 2名 南相馬市鹿島区ボランティアセンター2名 サロン 2名 杉並交通スギコートラベル 1名 京王観光1名 日本ダーツ協会理事1名 日本レク協1名 鹿島原町仮設自治会代表2名 講座協力3団体 広報協力2名 プロップK理事5名
自己評価	<p><b>事業は当初の予定どおり実施できましたか。</b></p> <p>事業周知用チラシを若者の多い所に配置したが、若年層には自己負担金(旅費負担)が多く、周知場所など工夫するも若年層にはあまり呼び掛けられなかった。その少数の若者に「現地活動の参加は直前まで判断せず、事前講習だけでもいい」という形にした事は、予定外だったが、今後の活動への参加等につながった。高齢希望者の反響が大きかった。 会議はメールなどで必要事項が確認できたが現地訪問はとても重要で有意義だった。事前講座や現地活動計画を自主的に組み立てる時にも現地の状況やニーズを反映する事ができた。事業期間が短期ではあったが効果があった。応募全般を通して事前の計画予定より充実したものとなったと思う。</p> <p>[自己評価]</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> できた      <input type="checkbox"/> 概ねできた      <input type="checkbox"/> あまりできなかった      <input type="checkbox"/> ほとんどできなかった</p>	

3 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

	事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	<b>当初予定したニーズがありましたか。</b>	
	<p>24年度に南相馬市支援事業を展開した経験から現地では避難生活の長期化などにより孤独感などメンタルな面のケアの継続的な支援が必要と知り本事業を企画した。杉並社会福祉協議会が行った地域活動にたいする区民の意識調査より「趣味や興味活動に勤しんでいる多くの層の多くは、活動自体が楽しいなどの利己性が基軸にあり、事業内容の工夫や環境さえ整えば、地域参加や社会への貢献活動にも参加できる事を予想し年齢を問わない掘り起こしが可能と協働化によって事業を計画した。</p>	<p>各団体で行う事業や施設を利用し周知をした。周知開始から事前学習活動まで短期間ではあったが、問合わせは老若男女問わず40件以上あった。連絡者には事業目的や内容を詳細に説明した。当初は「安い福島旅行か」「行くだけでもいいかと思った」と申し込んだ方でも講座の目的や内容を理解し参加した方がいた。事前講座日程により断念する方も多く「夜間講座がないのか?」「定期的にこういう企画がほしい」との声もあった。講座開始時点では20代～80代が集まり、この結果により「社会貢献したい」との意欲のある区民は本当に潜在する」との認識を再確認した。</p>
	<p>〔自己評価〕</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> あった      <input type="checkbox"/> 概ねあった      <input type="checkbox"/> あまりなかった      <input type="checkbox"/> ほとんどなかった</p>	
	<b>地域の特性を活かした活動になりましたか。新たな問題提起ができましたか。</b>	
	<p>「ボランティア活動者に関する意識調査」アンケート調査では、杉並らしいボランティアとして「困っている人を助ける事58.7%」「活動が社会を変える実感46.8%」等と言う利他的な意識より「活動自体が楽しい92.4%」「心身共に健康であり続ける事76%」と「利己性項目」が基軸となっているとまとめられている。区の実態調査との関連性を想像させる。その点を勘案して、「過去の社会貢献活動とは異なる利己性にも重点をおいた貢献活動」を提案し、新たな人材の参加を促す。生活状況や世代等様々な条件が異なり、価値観等も多様化している、都市型杉並区民の感性を尊重しつつ社会貢献の意義を実感できる事が重要。</p>	<p>杉並区民の特性を把握していた為そのニーズを満たす利己性や楽しさも充実させた計画とした。その為参加者は意欲的に学び、その経緯いで成功への期待を膨らませ、欠席もなくかつ自発的に充実させる努力をしていた。講座の欠席者は遅れを取り戻そうと当日参加者に関わり、その熱意がまたグループ間の交流を促進した。さらに旅行という「晴れの日」を共有することで、関係性が濃厚になり「仲間」作りに効果をあげた</p> <p>が、区内には学習や目的確認などが参加の壁となる「普通の層」が多くおり、さらに「敷居の低い貢献」「簡単な楽しい社会貢献活動」の提案が必要と感じた。それらの「普通の層」にもすぐできる社会貢献策として寄付を進めたが、多数の寄付行動には至らなかった。</p>
<p>〔自己評価〕</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> できた      <input type="checkbox"/> 概ねできた      <input type="checkbox"/> あまりできなかった      <input type="checkbox"/> ほとんどできなかった</p>		
<b>当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。</b>		
<p>旅行等楽しい経験と被災地の生々しい現状を共有し、踏み出す勇気と行動の重要性を学び、参加者の関係性は深まり仲間となる。この仲間が自主的にグループ化や活動を始める実績を残す事が人材発掘の一つの新しい手段として理解され、今後の地域活動人材育成等に効果をあげる事ができると考えている。</p>	<p>事前学習や活動企画に楽しさを盛込む充実が意欲や個性やスキルを生かした自発的な活動へと充実させる力を増加させるという事が立証できた。現地活動でもその力が発揮され自発的に問題解決し、よりよいものに昇華発展させた。さらに自らが、目で見・聞き・感じた事による体験や情報の重要性、そして協力して実際の行動を起こす事の重要性を実感し学びとった。今後も継続的な活動に結び付く人材発掘と養成ができたと思う。</p> <p>今回の参加者が継続的にその後の地域活動に結びつけるという効果では「これで終わりたくない」という状況時、社協より紹介された「介護クッション制作」ボランティア活動に注目が集まった。互いの特性がわかっているためすぐにグループができた。意欲や熱意があふれている時のタイムリーなアドバイスが継続活動始動できた大きな成功要因の一つであったと思う。</p>	
<p>〔自己評価〕</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> できた      <input type="checkbox"/> 概ねできた      <input type="checkbox"/> あまりできなかった      <input type="checkbox"/> ほとんどできなかった</p>		
<b>今回行った事業を通して、理解者や支援者はひろまりましたか。</b>		
<p>非常に多くの理解者ができた。大きな団体2団体を小さな団体が結び付けるとしう協働であったがこの形を通じて、互いの事業内容や専門性、特性が理解できた。その事によって本事業以外の分野で互いの事業を発展する力になった。</p> <p>助成金によって専門性の高い講師や団体が係った事で事業後も支援サポートを継続してくださっている。事業参加者の内の3名がプロップKの新会員となった。</p> <p>活動支援相手との交流が深まった事でさらに交流から被災地との協働事業(交易)に進むことができた。2月答礼訪問した原町自主サロン活動で手芸作品経費問題を聞き、当団体でのバザー委託販売を提案。「夢中になれる事がある不安な事も忘れられる。悲しみから卒業して前に進みたい」という言葉に支える支援交流から共に進むものとなれた事を実感した。</p>		
<p>〔自己評価〕</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 広がった      <input type="checkbox"/> 多少広がった      <input type="checkbox"/> 広がらなかった</p>		

#### 4 事業の公開と「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

<b>普及活動等</b>	<p>協働団体の独自活動やイベント実施時にチラシ配布や呼びかけをした。また事業参加者自身にも活動資金の内容を十分に理解してもらい啓蒙周知に参加してもらった。また南相馬社会福祉協議会や自治会など現地でも杉並NPO支援基金のパンフレットや過去の助成事業を紹介し減税措置などの基金システムについても説明した。「早く自分たちも寄付する側になれるようにしないとね」との声がでていた。寄付の重要性は理解できたが事業主催者への直接寄付要望が強く、支援基金への寄付の有用性までは理解には至らなかった現実がある。寄付者は事業内容や活動を応援するという実感を要望し企業団体は寄付後の波及効果を期待していると再認識した。それらの要望に納得できる説明ができなかった所があった。今回当団体に「参加ができないので寄付したい」と申し出があった為事業経費に算入した。</p>
--------------	---

#### 5 今後の課題と活動について

<b>今後の課題と活動</b>	<p>今回は初めて協働事業助成が認められた事を大きな弾みにしたいと思う。地域交流は個人間だけでなく個人のもつ背景を利用する事にもなる。特に今後は企業商店や町会・教育機関などNPO法人以外との協働が問題解決に必要なと思う。</p> <p>今回は企業サイドがかなり柔軟に対応してくれた事で問題が解決した部分が多くあった。企業に地域社会貢献した事で得る「利点」を周知し地域問題の理解を深めさせ、参入を促し協働によって地域問題の解決を試みる事が必要となると思う。</p> <p>今後も当団体は事業ミッションの達成に不可欠とあらばその協力支援が個人であれ企業であれ目的を共有できるものであれば協働していく活動を推進していきたいと思っている。</p>
-----------------	---

#### 6 活動状況について



杉並区NPO活動資金助成事業・杉並区社会福祉協議会後援事業

**「福島の今！見て・聞いて・感じて寄り添うサロン活動」**

**ボランティアサロンのお誘い**

皆さま 昨年の秋～冬 ダーツサロンではお世話になりました  
 今年はダーツだけでなく将棋のお相手をさせて頂いたり、お茶を飲みお話を聞いたり、お子様と折り紙などをしたり色々準備して杉並区から伺います。ぜひ多くの方とお知り合いになれます様  
 皆さまのご参加 ご協力お願い申し上げます。杉並区区民有志一同

昨年の様子

開催日時:11月15日(金曜)  
 午後1時半～4時  
 会場:牛越第3仮設集会所  
 初めてでも 面白いダーツ!  
 冬の運動不足も解消できます

主 催：特定非営利活動法人 プロップK  
 (03-3335-6230 <http://www.prop-k.or.jp>)

事業協働団体：杉並交通株式会社 杉並ボランティアセンター・地域福祉推進センター  
 協 力：南相馬市社会福祉協議会 鹿島区福祉サービスセンター  
 社団法人 日本ダーツ協会 杉並区内NPO活動団体





7 収支決算

事業費	472,285	補助金額	378,000
-----	---------	------	---------

収入		予算額	決算額	決算額内訳
	団体負担金	101,000	84,285	
	参加費・資料代等	75,000		参加者負担の福島までのバス代、宿泊費は本事業の助成対象ではないため計上していない。
	その他の収入	0	10,000	事業賛同者の寄付
	NPO支援基金助成	378,000	378,000	
	計	554,000	472,285	

支出	費目	予算額	決算額	決算額内訳
	報償費	152,000	66,000	事前学習講習謝礼 @8,000×5 = 40,000 事業当日講習会講師料 @10,000×1 = 10,000 活動報告原稿作成謝礼 @8,000×2 = 16,000
	旅費	249,000	199,680	8/31現地会議・3人分(59,980円)、9/30事前学習・1人分(2,000円) 2/26現地会議・3人分(67,700円) 3/15・事業当日現地バス代(70,000円)
	備品費・消耗品費	115,000	194,300	チランシ26,880円、ポロシャツ4,550円、シール819円、電池1,930円、電池378円、ダーツ消耗品7,130円、コピー2,960円、プレゼン資料等32,130円、リーフレット116,340円、ハサミ396円、筆記具等787円
	役務費	34,000	1,400	郵送料@710×1通、@390×1通 往復はがき@100×3枚
	使用料・賃借料	4,000	4,000	ダーツ交流会場費@2,000×2
	その他の経費		6,905	児童書1,890円、交流会お茶代1,560円、写真プリント代1,915円、会議資料(雑誌)940円、駐車場600円
	計	554,000	472,285	